

# 同窓会ニュース

第4号

平成2年3月10日  
職業訓練大学校  
〒229 神奈川県相模原市相原1960

## 校長就任のご挨拶



校長  
早川 宗八郎

訓大同窓会の皆さまにご挨拶申し上げます。平成元年4月に浅枝前校長の後を襲いで校長に就任しました。浅枝先生は研究課程の設置・長期課程の再編など技術の進歩に応じた職業訓練を目指して、教育・研究のレベルアップに尽され、その成果はまさに華々しい限りです。それらは、必しも職業訓練指導員の需要と供給とが活発とはいえない近年の状況の中で、その活性化と卒業生の企業

等への進出を可能にするきわめて適切な方策であるといえましょう。急速かつ高度に発展しつつある産業技術技能の教育・研究に対応し、かつ指導員養成の本来の目的をいかに果たしていくか、が目下私たちに課せられている課題です。本年度研修研究センター（旧訓研）も明確に本校の組織として位置づけられ、指導員の研修も本校の重要な使命であるとの認識を新た

にし、併せて国際協力の面でも多大の期待が寄せられていることに喜びと責任を感じています。

またこれらに関連して、十数年前からの課題ですが、校名を変更したいとの方向に大方のベクトルが向いてきたように思えます。勿論「名より実」という意見もあります。当然です。たしかに職業訓練という言葉のイメージは悪いが、目的校とし

でのアイデンティティを明確にすべきであるという意見です。私も同感です。ただ私の思いは、本校の目的はたしかに職業能力開発の指導員の養成にあります。指導員養成「校」ではなく指導員養成「大学」にあります。これは「校」のあるなしではなく、本校は大学の理念を保持するものでありたいとの願いです。ヤスパースは「大学の理念」の中で「大学とは自由と真理（学問）を尊ぶ精神のもとに国家や社会をリードする先導的批判的役割を果たすもの」との趣旨を述べています。現代の各大学はこの大学の理念から見れば、たしかに混迷の中にいるといえましょう。しかし本校は、目的校という特徴を生かして、職業能力開発の体系の頂点にあるものとして、その体系の確立

と発展に貢献する大学としての役割を果たすべきものと考えますし、そうありたいと願っています。そして、この役割の成果は現代社会の中で重要な意義と高い評価を認められるものと信じています。皆さまの支援と鞭撻を切にお願いいたします。

#### [略歴]

- 1926年 東京生れ
- 1947年 東京大学理学部卒業
- 1963年 東京工業大学教授
- 1986年 千葉大学教授・東京工業大学名誉教授
- 1989年 職業訓練大学校長

## 「旧訓大寮を語る会」開催さる。

昭和36年、中訓寮で始まり、今年の1月まで東京短大の青雲寮として、幾多の青春の思い出を残してくれた旧訓大寮が、この2月をもってその役目を終え取り壊されることになりました。これを機に昔の仲間が一堂に会し当時を偲ぼうと、近在の方々に声を掛け、2月3日（土）、東京職訓短大に、清水教務長、内山学生課長、祝さん、浜さんをはじめ、1期生から13期生までの約40名が集い、思い出話に花を咲かせました。訓大創設期、不慣れな寮運営に頭を悩ませたという、清水教務長、内山課長の挨拶、何故か寮長さんにさせられていたという祝さんの話、祝さんが保管されている寮生日記をめくりながら当時を偲びました。寮歌を作曲された1期生木下さんからのメッセージに読み上げられ、寮歌を口づさみながら、昔に帰って酒を飲み交わすうち、予定の3時間もアツという間に過ぎてしまいました。

相模原の訓大へは行く機会は有ると思いますが、訓大発祥の地小川へは足を運ぶことも無いでしょ



う。日程的に急な企画ではありましたが、参加者の方々には、2次会も含めて、今あるむつかしい立場を忘れ、楽しい一時を過ぎていただけたこと、主催者として大変嬉しく思いました。今回の集りの中で、訓大発祥の地に何かモニュメントを残そうとの企画も出て来ました。何年か先に、モニュメントを囲んでまたこんな集まりができればと思っております。

東京短大 増田 勝治（溶接・二期）

平成元年度・2年度各課程応募状況

平成元年度 長期課程入学試験応募状況

科別内訳 ( )内は女子

科名	産業機械	生産機械	電気	電子	情報	建築	造形	福祉
定員 230名	30	30	30	30	30	30	30	20
応募者 計 2,089名(71)	373 ( 2)	148 ( 0)	217 ( 2)	267 (11)	389 (20)	345 (26)	234 ( 7)	116 ( 3)
応募倍率 9.1倍	12.4倍	4.9倍	7.2倍	8.9倍	13.0倍	11.5倍	7.8倍	5.8倍

平成2年度 長期課程入学試験応募状況

科別内訳 ( )内は女子

科名	産業機械	生産機械	電気	電子	情報	建築	造形	福祉
定員 230名	30	30	30	30	30	30	30	20
応募者 計 1,938名(81)	247 ( 2)	331 ( 0)	181 ( 1)	201 ( 3)	274 (16)	327 (34)	193 (14)	184 (11)
応募倍率 8.4倍	8.2倍	11.0倍	6.0倍	6.7倍	9.1倍	10.9倍	6.4倍	9.2倍

平成元年度 研究課程工学研究科応募・合格状況

項	定員	応募	合格
専攻			
機械専攻	全専攻	6	6
電気・情報専攻		4	4
建築・造形専攻		2	2
合計	20	14	14

(参考)

平成2年度 研究課程工学研究科応募・合格状況

項	定員	応募	合格
専攻			
機械専攻	全専攻 20	10	8
電気・情報専攻		8(1)	7(1)
建築・造形専攻		2(1)	2(1)
合計	20	22(2)	19(2)

( )内は外国人留学生

は  
吹  
る  
さ

## 同窓会活動報告

# — 創立 25 周年にむけて —

同窓会ニュース第3号では、同窓会の今後の方向に関わる基本事項について、理事会の考え方をお知らせしました。その後さらに検討を重ね、今総会で会則の改正を提案したいと考えています。以下に改正案の骨子と同窓会創立25周年記念事業の概要をお知らせします。

### 1. 規約改正

(1) 名称 同窓会に新たな名称を付けることの必要性については、ニュース第3号でお知らせしたところです。会員の皆様および各地域で同窓会活動をリードして下さっている方々の意見を総合して、理事会としては「滄水会」を提案します。訓大学生歌「若き命」（作詩 永原庸好君、作曲 木下正弘君）の一節「滄水多摩の水清く」から採っていますが、相模原校舎の近くにも相模川が流れていますので、小平時代の思い出を残しつつ、現在地にもふさわしい名称ではないかと考えています。

(2) 目的 卒業生の進路状況、時代の流れ等を勘案し、簡潔に「会員相互の親睦と誘掖を図ること」を本会の目的とするよう提案します。

(3) 財政 終身会費制のまゝ、会費を10,000円（現行8,000円）にすること、さらに寄付を同窓会の維持のための寄付と、特別

副会長 久下 靖征（塗装・二期）

な事業のための寄付とに分け、新たに細則で定めることを提案します。とくに維持のための寄付は、正会員の入会后20年毎に定期的・定常的に募集することによって新たな財源としたいと考えています。会費値上げを小幅にとどめ、新入会員への過大な負担を避けたいとの考えからです。

(4) 支部 現行の支部は、通則で10地方支部を設置することが定められていますが、会員の実態にそぐわない点があります。そこで、改正案では本則の中で規定し、「地域別、学科別等会員の分布状態および集合の便に応じて組織する」ことを提案します。

### 2. 創立25周年記念事業

記念事業としては、記念誌の発行、訓大構内にモニュメントの設置、記念講演会、記念パーティー等を企画しています。すでに実行委員会を編成し、活動を開始していますのでご期待下さい。

総会は、記念講演会、記念パーティーとあわせて、平成2年11月17日、都内にて行う予定です。

記念事業を行うにあたり、会員各位には各種行事への積極的参加、寄付等へのご協力を心からお願いする次第です。

### ☆ 訓大職員の退職について

訓大及び訓大卒業生に対して、ひとかたならぬ御尽力を下さった次の先生方が今春3月末をもって退職されますので御連絡致します。

塑性加工科 浅田 一雄 教授  
溶接科 村本徹五郎 教授

お知らせ